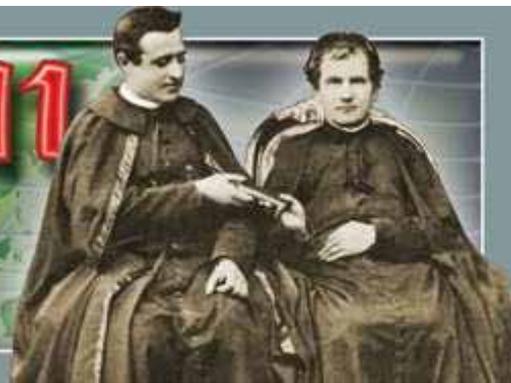


CAGLIERO 11

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.47 - 2012年11月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



移住者：兄弟姉妹として迎える人々、サレジオ会に豊かさを与えてくれる存在

サレジオの宣教師の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

11月末、ヨーロッパの管区長たちが4度目となる会合に集います。2008年に始まったプロジェクト・ヨーロッパは、旧大陸（ヨーロッパ）におけるサレジオ会カリスマの再活性化と新福音宣教のために、すでに実りをもたらしています。

会合の議題の一つは**ヨーロッパの移民のためのサレジオ会の取り組み**に関する調査結果です。公式の統計によれば、ヨーロッパには4千万人の移民がいます。2千万人が他の大陸から、1千万人がヨーロッパ共同体の国々から、そして1千万人がジブシーの人々です。私たちサレジオ会は、移民のためのさまざまな活動に取り組んでいます。

プロジェクト・ヨーロッパ委員会は

2011年に、ヨーロッパにおける移民のための取り組みは、実際に、私たちのカリスマを再活性化する活動であると指摘しました。新福音宣教への貢献であり、私たちのカリスマの内側からの再生のために資源となるものであると。トリノの移民の少年、バルトロメオ・ガレリの存在がサレジオ会ミッションの始まりをしるしたように、アルゼンチンのイタリア人のための私たちの事業は、サレジオ会にとって「すべての人々への宣教mission ad gentes」の出発点となりました。いくつかの**基本的洞察**は、ヨーロッパ28管区の旅の歩みのインスピレーションとなるでしょう：移住者のための働きは、教会の前線で信頼に足るものとなる預言的な分野です。信仰を持たない人々の目にもわかりやすい人道的なあかしです。召命のために働く分野です。協同のうちに働くことを学ぶための新たな分野です。信徒が全面的に参加する分野です。

ヨーロッパ以外の諸管区がプロジェクト・ヨーロッパに関わることを容易にします。また、サレジオ会員の養成と固有の召命の学びとなる分野です。

2012年7月のイタリア語版ボレッティーノ・サレジアーノに、あるヨーロッパ人宣教師がガーナからの少年ニコラスについて書いています。貧しい生活をするニコラスは、ヨーロッパの福音化のために祈っているのです！刻々と変化する世界のダイナミックな動きに驚くために、心を開きたいものです！ヨーロッパに暮らす移民は、温かく迎えるべき兄弟姉妹、教会とサレジオ会のための豊かさなのです。

Václav Clement

宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父



11月の行事

- 5～9日 > エチオピア、アジスアベバ：研修会
「アフリカ・マダガスカルにおいてキリストを告げる第一次福音宣教」
- 10～12日 > エチオピア、アジスアベバ：アフリカ・マダガスカルのPDMA会議
- 24日 > エクアドル、マカス：シスター・マリア・トロンカッティ列福式



サレジオ会が深い宣教精神を生きるものであることを ドン・ボスコは望んだ

11月11日は、サレジオ会の宣教について思い起こさせてくれます。教会のすべての信徒は、洗礼によって宣教する生き方を生きようと呼ばれています。洗礼を受けている人々(信徒、奉獻生活者、司祭)の中には、教会の宣教活動に全面的に献身する人々がいます。実に、**私たちのサレジオ会召命は、教会の心・中心に私たちを置くものであり(会憲第6条)、教会はその本質によって宣教するものです(公会議公文書「教会の宣教活動に関する教令」2)。**

ドン・ボスコのヴァルドッコでの青少年への奉仕は、彼のあらゆる取り組みに活力を与えたダイナミズムとしての、宣教の次元の深く浸透したものでした。ドン・ボスコは、信仰を広め、サレジオ会の宣教活動について知らせるため、当時のコミュニケーション手段を活用しました。Da mihi Animasに要約されるこの宣教の熱意は、ドン・ボスコのあらゆる活動を支える原動力でした。「ドン・ボスコは、若者を救うという目的なしには一歩も歩まず、ひと言も語らず、ただ一つの仕事も取り上げませんでした。……実に、ドン・ボスコの心にかかっていた唯一のことは、**霊魂のことでした**」(ドン・ルア)。会憲が承認された(1874年)直後、1875年の11月11日にドン・ボスコが最初の宣教団を派遣したことは、このような光に照らして理解することができます。

ドン・ボスコはこの宣教の理念を、自らの霊的・使徒的遺産の一部として私たちに残しました。そのため、特別総会は、宣教の次元が「私たちのカリスマの本質的要素」とであると強調しました。この宣教の熱意を保つため、特別総会はまた、次のように主張しました。「若いサレジオ会員の養成の初めから、宣教の理念を客観的、魅力的に、その価値を明確に示しながら、提示しなければなりません。わが会の宣教の取り組みについて広く知らせ、これを促進しなければなりません。わが会の偉大な宣教師たちの生涯や人となりを研究し、何よりも、あらゆる宣教召命の土台となる使徒的熱意と超自然的な寛大さの精神を培わなければなりません。」(特別総会文書476)

サレジオ会カリスマの宣教の次元は、まだ福音を耳にしたことのない人々の間で、また教会が十分に築かれていない場所で(**ad gentes**)、あるいは人々が自らの故国・文化的環境・言語グループを離れ(**ad exteros**)、信仰がすたれている場で、生涯をかけて(**ad vitam**)宣教の使徒職に従事するという固有の召命を持つサレジオ会員がいるということを除外せず、むしろそのことを含みます。宣教師になる呼びかけを感じる会員は、サレジオ会宣教師としての生活への基本的適性を見極めるために、まず神の呼びかけを識別し、自らの動機を清め、深め、自分の資質や姿勢を確かめるため、霊的指導の助けを求めなければなりません。このことは、宣教師となるための識別の歩みにおける最初の、最も大切な段階で、その後、総長にあてて宣教師として志願する手紙を書き、最後は宣教の十字架の授与、そして派遣へと至ります。

宣教部門

アルフレド・マラヴィツァ神父
SDB



第143回
宣教派遣の
新宣教師たち



サレジオ会の宣教の意向

ヨーロッパの全28管区におけるプロジェクト・ヨーロッパの活性化

プロジェクト・ヨーロッパによって新たな地平が開かれ、ヨーロッパでサレジオ会カリスマを内から再活性化させる新たな希望が生まれますように。

この5年間に、ヨーロッパのすべての管区はヨーロッパにおけるサレジオ会カリスマを内から再活性化するための歩みを始めました。こうして、ヨーロッパの6300人の会員のために新たな地平が開かれました。半年ごとに集まるプロジェクト・ヨーロッパ委員会および2年ごとに集まるヨーロッパ管区長の会は、このプロセスの2つのテーマを特定しました。若者の新福音宣教へのサレジオ会としての貢献に加え、ヨーロッパにおける移民の若者とその家庭のための取り組みに力を入れることを目指します。ヨーロッパには4千万人の移民(2千万人がほかの大陸出身、1千万人がヨーロッパの国々出身、1千万人がジプシー・ロマの人々)がおり、その多くはキリスト者です。

